

お お も り じ ょ う あ と

大森城跡

所在地：東近江市大森町

遺跡の概要

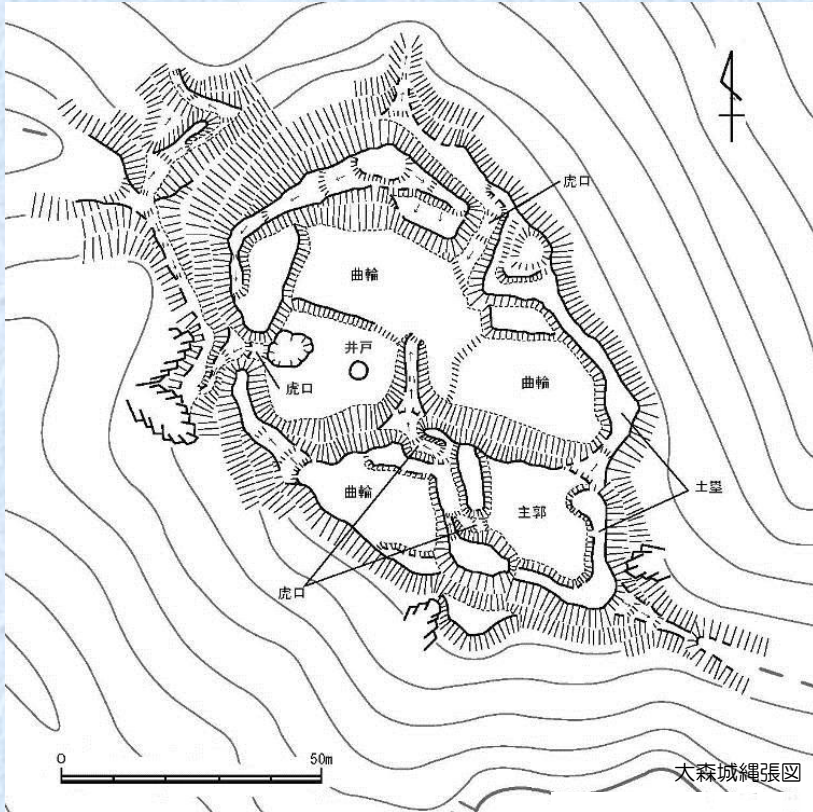
大森城は布引丘陵のうち、標高約233mの尾根上に築かれた山城で、布施氏により築かれたと伝わります。布施氏は、近江守護佐々木六角氏の家臣で、一族の内、布施三河守家と布施淡路守家の二家が有力でした。

本家筋にあたる布施三河守が永禄六(1563)年の観音寺騒動の後、永禄九(1566)年には北近江の浅井氏と呼応して、布施山城(布施町)で佐々木六角氏に叛旗を翻しました。その後永禄十(1567)年、佐々木六角氏の結束を強化するために定められた法令「六角氏式目」には布施淡路守公雄の名があり、布施淡路守家が佐々木六角氏の家臣のなかで有力になっていったことがわかります。

このことは、佐々木六角氏の本城である観音寺城(国史跡、五個荘川並町・近江八幡市)内に、布施淡路丸と呼ばれる広大な郭が残されていることからもうかがわれます。



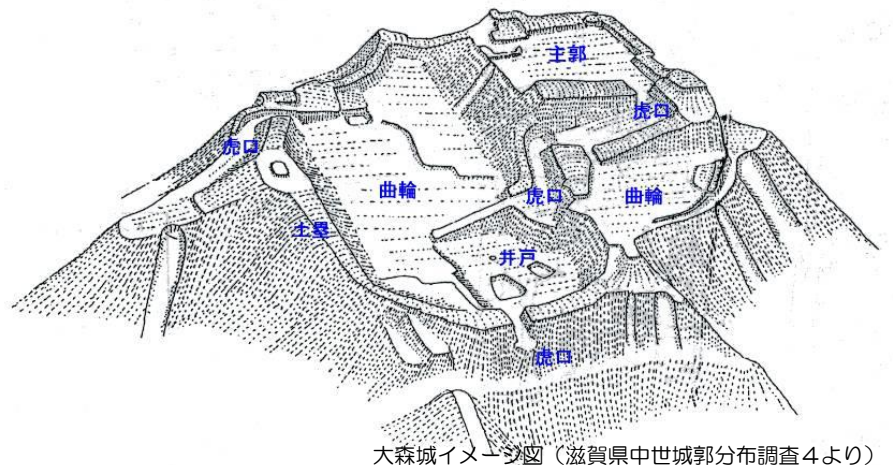
大森城遠景



大森城縄張図



井戸跡



大森城イメージ図(滋賀県中世城郭分布調査4より)



虎口（西側）

大森町集落にある大森陣屋遺跡（現玉緒小学校）は江戸時代には最上氏の陣屋がおかれたところですが、発掘調査では室町時代に遡る遺構が出土しており、大森陣屋がおかれる以前には布施氏の平常時の居館があったと考えられます。

布施淡路守公雄の子藤九郎公保は、佐々木六角氏が没落した後、織田信長の目にとまり馬廻衆として引き立てられました。本能寺の変に際し信長と運命を共にしたとみられます。

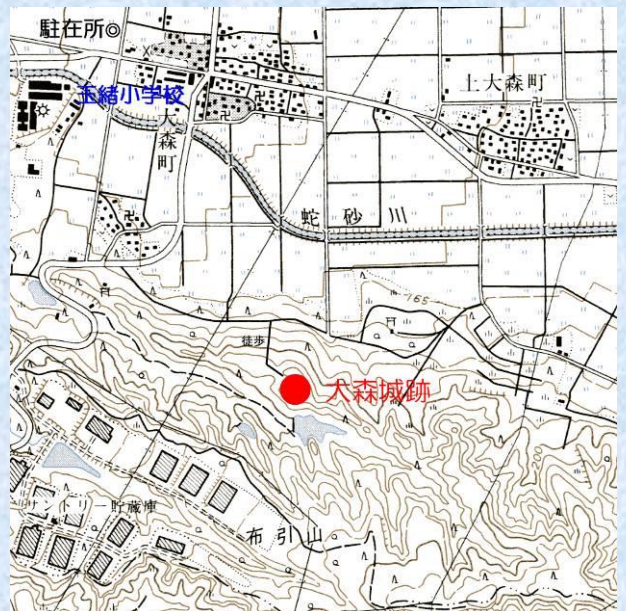
さらにその子、布施大学友次は「出羽州山形最上に属す」とあり、豊臣秀吉の時代には最上氏の家臣となっていたことがうかがえます。



最上氏陣屋よりも古い溝跡（大森陣屋遺跡）



大森陣屋跡の石碑



★大森城跡には・・・



所在地：東近江市大森町
 アクセス：近江鉄道八日市駅から
 ちよことバス大森駐在所前下車徒歩 25 分
 名神高速道路八日市 I.C より車で 10 分



東近江市の遺跡シリーズ9「大森城跡」

編集・発行：東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL:0748-42-5011 IP:0505-801-5011 FAX:0748-42-5816

[平成 23 年3月発行]

このパンフレットは地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)を得て作成しました。